

新たな管理型最終処分場の候補地選定に係る現地調査結果について ー別添資料ー

(1) 「地形・地質に関する調査」の結果

調査項目	須崎市神田地区	香南市香我美町上分地区	佐川町加茂地区	
地形・地質に関する調査	地すべり地形	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された地すべり地形は、候補地の谷の入口あたりに分布が確認された。その箇所では、<u>植木の根曲りが確認され、やや不安定と推測される</u>→地すべり地形の下流側を掘削することによって、地すべり活動が活発となる可能性がある 地すべり箇所の幅は小さく、小規模なものである 	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された地すべり地形は、現地調査において確認されなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 地すべり地形は地形図により判読されていなかったが、現地調査においても確認されなかった
	土石流の痕跡	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された痕跡は、候補地流域の谷の奥で確認された。その痕跡は、<u>周囲の植生は低木や笹等であることから、発生してからそれほど多くの年数が経過していないと考えられる</u>→<u>不安定な状態と推測され、将来的に土石流の発生が考えられる</u> 痕跡の高低差は小さく、小規模なものである 	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された痕跡は、候補地流域の谷の奥で確認された。<u>周囲の植生が杉の植林等であり、その幹の大きさから、その痕跡は発生してから、数十年経過しているとみられる</u>→<u>現段階では概ね安定していると推測されるが、将来的に土石流が発生する可能性が考えられる</u> 痕跡の高低差は小さく、小規模なものである 	<ul style="list-style-type: none"> 土石流の痕跡は地形図により判読されていなかったが、現地調査においても確認されなかった
	斜面崩壊	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された斜面崩壊の痕跡は候補地内の谷筋の斜面で確認された 崩壊の痕跡の高低差は小さく、小規模なものである→<u>将来的に大規模な崩壊を起こす可能性は小さいと考えられる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 地形図により判読された斜面崩壊の痕跡は候補地内の谷筋の斜面で確認された 崩壊の痕跡の高低差は小さく、小規模なものである→<u>将来的に大規模な崩壊を起こす可能性は小さいと考えられる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 平坦地の周囲には斜面があり、南側斜面は尾根までの高さはあるものの傾斜は緩い→<u>将来的に斜面崩壊を起こす可能性は小さいと考えられる</u> 東西及び北側の斜面の傾斜は一定急ではあるが、高さが低いことが確認された →<u>将来的に大規模な崩壊を起こす可能性は小さいと考えられる</u>
	地形	<ul style="list-style-type: none"> 谷地形（土地利用：山林）である 谷幅は全体的に狭いことが確認された →<u>谷底に堆積した固まっていない土砂の層は薄いと推測される</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 谷地形（土地利用：山林）である 谷幅は全体的に広いことが確認された →<u>谷底に堆積した固まっていない土砂の層は、谷幅の狭い箇所と比べると厚いと推測される</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 平坦地であり、石灰岩鉱山（休鉱中）の採掘跡を埋戻した土地である →<u>埋戻土の厚さは不明である</u>
	地質	<ul style="list-style-type: none"> 砂岩と泥岩が交互に重なる地層である 地層に占める割合は砂岩より泥岩の方が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 砂岩と泥岩が交互に重なる地層である 地層に占める割合は泥岩より砂岩の方が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 候補地及びその周辺には、石灰岩が分布している 候補地内では確認されていないが、周辺の候補地内と同様の地質帯では、<u>洞穴が確認された</u>→<u>候補地の地下に洞穴が無いとは言いきれない</u>

新たな管理型最終処分場の候補地選定に係る現地調査結果について ー別添資料ー

(2) 「水に関する調査」の結果概要

	調査項目	須崎市神田地区	香南市香我美町上分地区	佐川町加茂地区
水に関する調査	流域数	<ul style="list-style-type: none"> 候補地及びその周辺を6流域に区分 A流域の面積：0.25km² 	<ul style="list-style-type: none"> 候補地及びその周辺を5流域に区分 A流域の面積：0.364km² 	<ul style="list-style-type: none"> 候補地及びその周辺を10流域に区分 A流域の面積：0.862km²
	比流量 (リットル/毎秒/km ²)	<ul style="list-style-type: none"> 6流域の平均比流量：7.7 (A流域：5.7) 各流域の比流量は5～10であり、<u>大きな差は無い</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 5流域の平均比流量：3.7 (A流域：3.4) 各流域の比流量は3～5であり、<u>大きな差は無い</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 10流域の平均比流量：17.4 (A流域：30.9) A流域の比流量が隣接する周辺の流域よりも比較的大きい
	電気伝導度Ec (μS/cm)	<ul style="list-style-type: none"> 各測定地点で電気伝導度は55～141(A流域61～106)であった 	<ul style="list-style-type: none"> 各測定地点で電気伝導度は60～186(A流域64～186)であった 	<ul style="list-style-type: none"> 各測定地点の電気伝導度は23～509であった A流域(72～509)やD-5地点(299)は<u>電気伝導度が高い</u>
	水素イオン濃度指数pH	<ul style="list-style-type: none"> いずれの地点も、ほぼ中性を示している(A流域6.7～7.1) 	<ul style="list-style-type: none"> いずれの地点も、ほぼ中性を示している(A流域6.6～7.2) 	<ul style="list-style-type: none"> 電気伝導度の高いA流域やD-5地点では、<u>アルカリ性を示している</u>(A流域：6.9～8.0、D-5地点：7.9)
	主成分分析	<ul style="list-style-type: none"> 分析を実施したいずれの地点も、浅い地層を通過した地下水でよくみられる「重炭酸・カルシウム型(I型)」に分類される イオンの溶け込んだ濃度は低い 	<ul style="list-style-type: none"> 分析を実施したいずれの地点も、浅い地層を通過した地下水でよくみられる「重炭酸・カルシウム型(I型)」に分類される イオンの溶け込んだ濃度は低い 	<ul style="list-style-type: none"> 分析を実施した地点のうち、谷地地区の井戸を除く地点は、浅い地層を通過した地下水でよくみられる「重炭酸・カルシウム型(I型)」に分類される 谷地地区の井戸は、流動時間が長く深い地層を通過した地下水でよくみられる「重炭酸・ナトリウム型(II型)」に分類される A流域及びD-5地点は、カルシウムイオンや重炭酸イオンの濃度が高く、それを除く5地点は、カルシウムイオンや重炭酸イオンの濃度が低い
その他			<ul style="list-style-type: none"> A流域の北東に隣接する流域内では、地下水が湧き出ている地点が確認された → 比流量や石灰岩に由来する水質の特徴から、A流域の地下水の一部が北東に隣接する流域に流動している可能性が考えられる 現地調査により確認された谷地地区の生活用水として利用される可能性のある井戸はその水位標高(約200m)が候補地の平坦地部分の標高(176m)より高いことや水質分類の違いから、候補地からの水の影響を受けることはないと考えられる 	

新たな管理型最終処分場の候補地選定に係る現地調査結果について —別添資料—

(3) 「進入道路の整備案」及び「周辺調査」の結果

調査項目		須崎市神田地区		香南市香我美町上分地区		佐川町加茂地区	
進入道路の整備案	整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・エコサイクルセンターへの搬入車両のうち、最大である25 t 車が通行できるよう道路幅員を5.0mとする ・25 t 車と乗用車等との行き違いを可能とするため、200m程度の間隔で、幅員6.0mの待避所を設置する ・児童・生徒の通学等の歩行者等の通行が想定される区間は、歩道（幅員2.5m）を片側に設置する ・全区間が新設の場合、主に施設への搬入車両のみを想定しているため、歩道は整備しない 					
	道路案	現道拡幅+新設 (案1)	一部現道拡幅+ 新設(案2)	現道拡幅+新設 (案1)	新設 (案2)	現道拡幅 (案1)	新設 (案2)
	延長(km) (うち整備総延長)	2.2 (2.15) 〔現道拡幅1.55 新設0.60〕	2.16 (2.16) 〔現道拡幅0.16 新設2.0〕	0.90 (0.90) 〔現道拡幅0.5 新設0.4〕	0.89 (0.89) 新設のうち トンネル0.49	3.11 (2.41)	2.04 (2.04)
	必要となる用地面積 (㎡) ※概数	田畑：3,900 山林：20,000	田畑：7,100 山林：20,000	宅地：1,100 田畑：1,200 山林：14,500	山林：14,500	山林：12,100	田畑：13,200 山林：52,700
	想定補償物件	農業用ハウス等9件	農業用ハウス等11件 井戸1箇所	家屋1棟 倉庫3棟	補償対象物件なし		
	概算工事費用	約6.2億円	約7.1億円	約2.7億円	約11.5億円	約10.1億円	約7.3億円
	想定工事期間 ※概数	約1年2か月	約1年3か月	約10か月	約1年8か月	約1年6か月	約1年3か月
周辺調査	進入道路の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用ハウスが県道沿いに立地しているため、農業者が道路脇に駐車して農作業を行っていることがある ・農業用ハウスが立地している区間から東側の県道沿いには家屋が立地している ・近隣の学校等への通学・通園路として利用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現道拡幅区間を除いては、一般道利用区間はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道沿いには、住家、田畑がある ・近隣の学校等への通学・通園路として利用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道2車線区間からの直接進入となるため、一般道利用区間はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道33号との分岐付近以外は、道路沿いに住家等はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道からの直接進入となるため、一般道利用区間はない
	交通量 (昼間12時間)	754台 (小型739台、大型15台)		156台 (小型143台、大型13台)		44台 (小型35台、大型9台)	—
	水利用の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・候補地の下流域には、水田耕作地等があり、神田川には取水堰が設置されている 			<ul style="list-style-type: none"> ・候補地の下流域には、水田耕作地等があり、山南川には取水堰が設置されている 		<ul style="list-style-type: none"> ・A流域の下流に住家が確認され、さらに候補地の下流域には水田耕作地等があり、長竹川には取水堰が設置されている